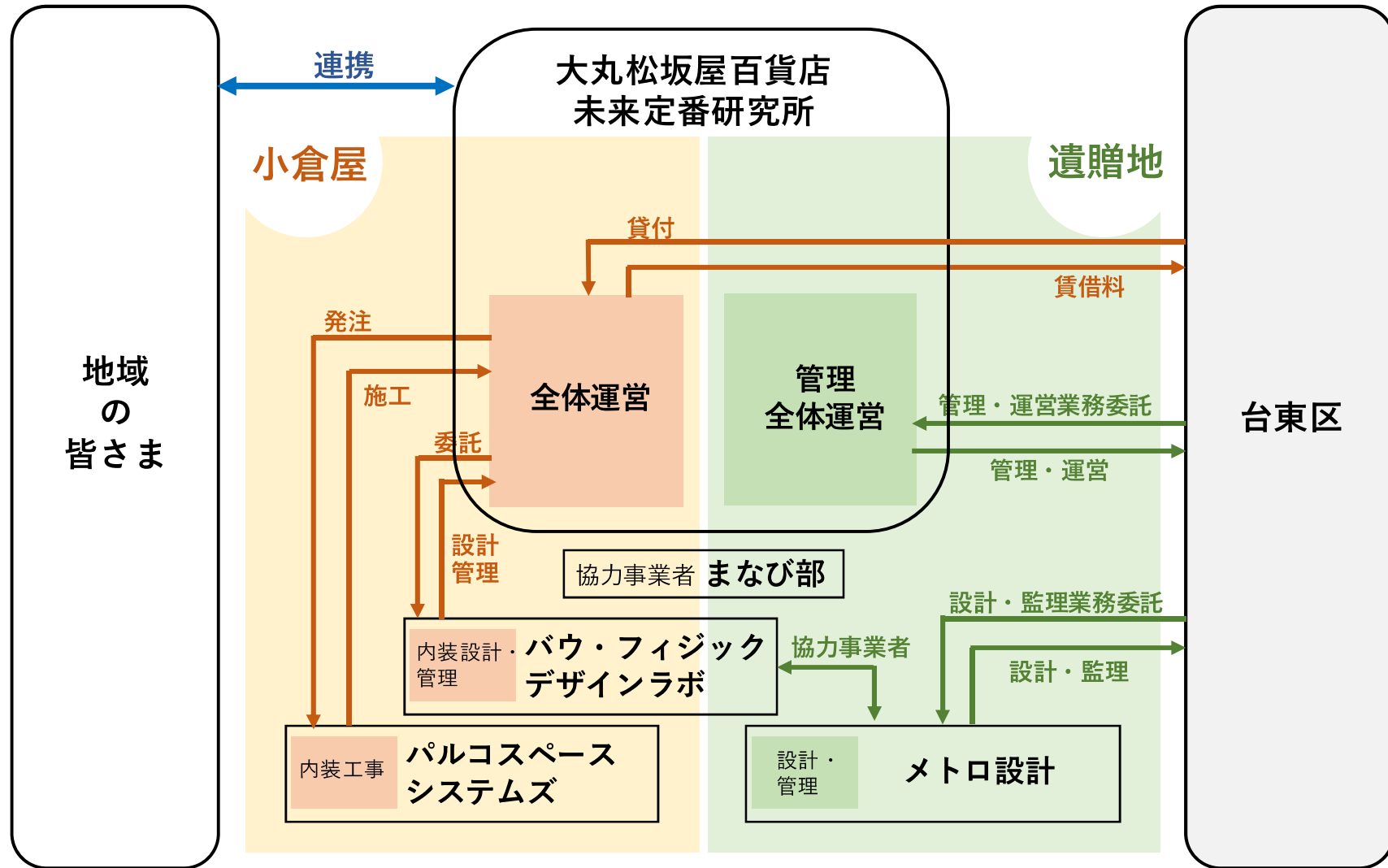


**谷中5丁目遺贈地設計・管理運営業務受託者及び
すぺーす小倉屋運営事業者選定プロポーザル
提案内容のご説明**

朝倉彫塑館通り・未来共創コンソーシアム

体制図とメンバーの紹介



大丸松坂屋百貨店・未来定番研究所について

大丸・松坂屋は江戸時代に創業。

現在は大丸・松坂屋に加えGINZA SIXの屋号で、札幌から博多まで全国に16店舗を展開、それぞれの地域に根差した営業活動を続けている。

「未来定番研究所」は、5年先の未来定番生活を探求する部署として、2017年に設立。



百貨店として、衣食住遊知を総合的に提案。「つくる人」「つかう人」を、発見・発掘・編集し繋いでいく。

谷中の地域課題を踏まえ、また地元協議会での意見交換を参考に、①地域の魅力向上や②活性化を目的として、地域住民や来街者が集い訪れたくなる場所となるよう、活用方針を次のとおりとする。

活用方針

①遺贈地

- ・ 日常的には地域住民や来街者が集う、憩い・ふれあいの広場として、地域の魅力向上につなげる。
- ・ 災害時は防災に資する機能を提供する。

②小倉屋

- ・ 貴重な景観資源の活用を通じ、谷中の魅力を発信する。
- ・ 地域住民に加え、来街者が集い、交流やにぎわい等を生み出し、地域活力の向上につなげる。

私たちが思うこのまちの魅力

谷中・朝倉彫塑館通りについて

●震災や戦災を免れた古い建物や街区が街並みを作り、おせっかいと懐の深さが同居する人間関係が谷中地域を形成。

●寛永寺に続く寺院や墓地は、祖先を辿る時間軸を提供し、懐かしさを紡いでいる。

●谷中は観光地としての価値も高く、歴史的建造物だけでなく、ここに住む人の暮らしに魅力を感じる来街者も多い。

●空き家の建替えによる景観の変化やマンション建設による新しい居住者も流入。

循環型ライフスタイルについて

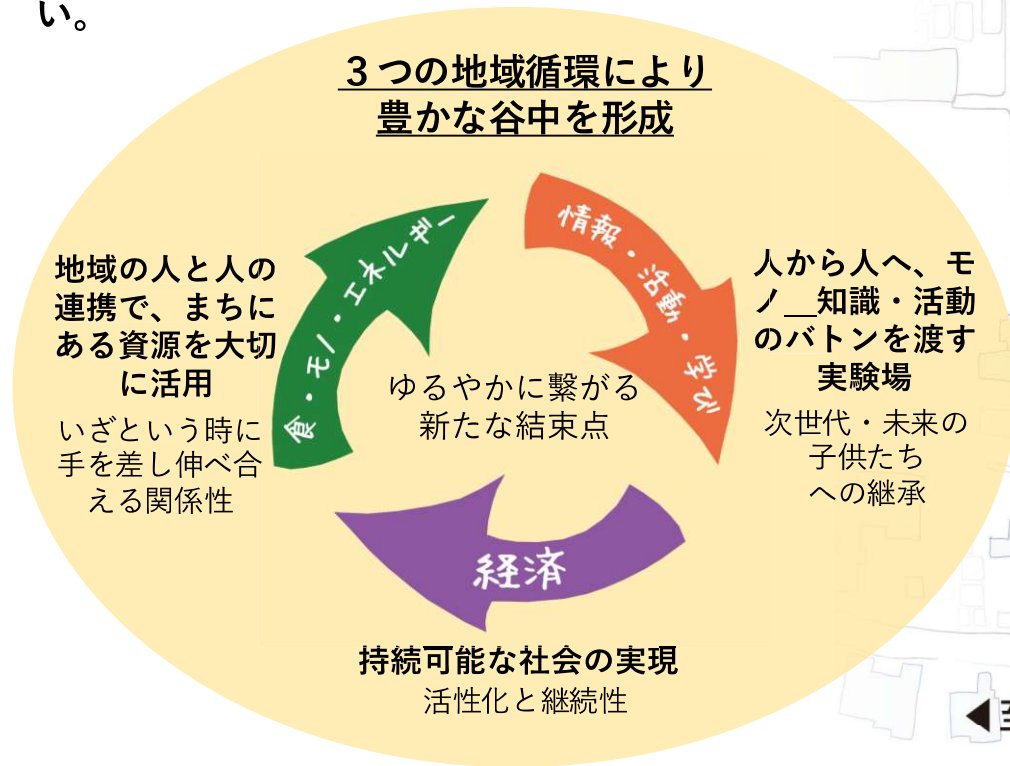
●台東区では循環型ライフスタイルへの転換を推進している。

●生活者一人ひとりの環境に配慮した行動変容は、今後ますます重要になる。



「居心地のよい豊かなまち・谷中」 小さな拠点のネットワークから 大きな地域循環をつくる

遺贈地・小倉屋の再生・活用により、新旧住民や来街者がゆるやかに繋がる場生まれる。3つの地域循環を育みながら、通りの個性や文化の発信にも寄与していきたい。



遺贈地のプランを考える上で意識したこと

まちにある資源を地域で活用したい！

▶ みんなで一緒に野菜や草花を育てる資源活用

- ・ 生ゴミを堆肥にできるコンポストによる堆肥の回収
- ・ 地域の神社やお寺の落ち葉・枯れ枝を収集し土壌に活用
- ・ 地域の廃材を柱や家具・レイズドベッドの材料に

災害時の一時集合場所がなくなった・・・

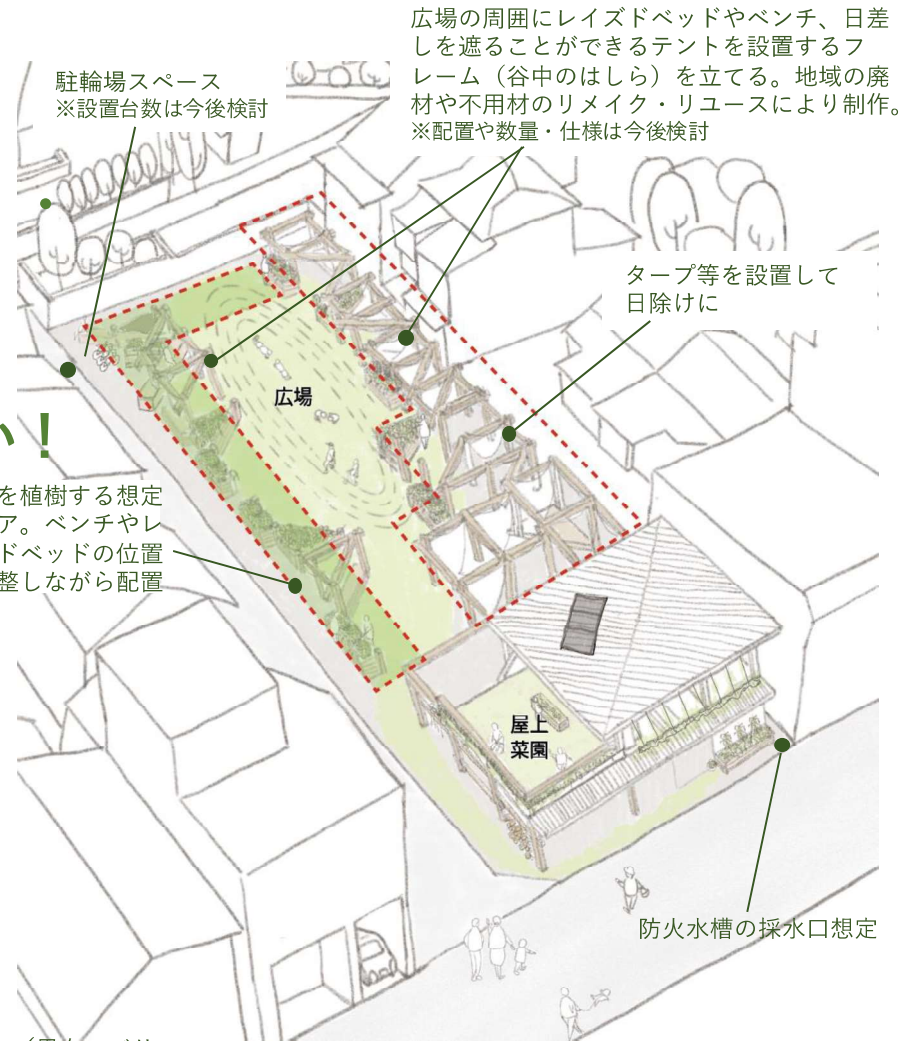
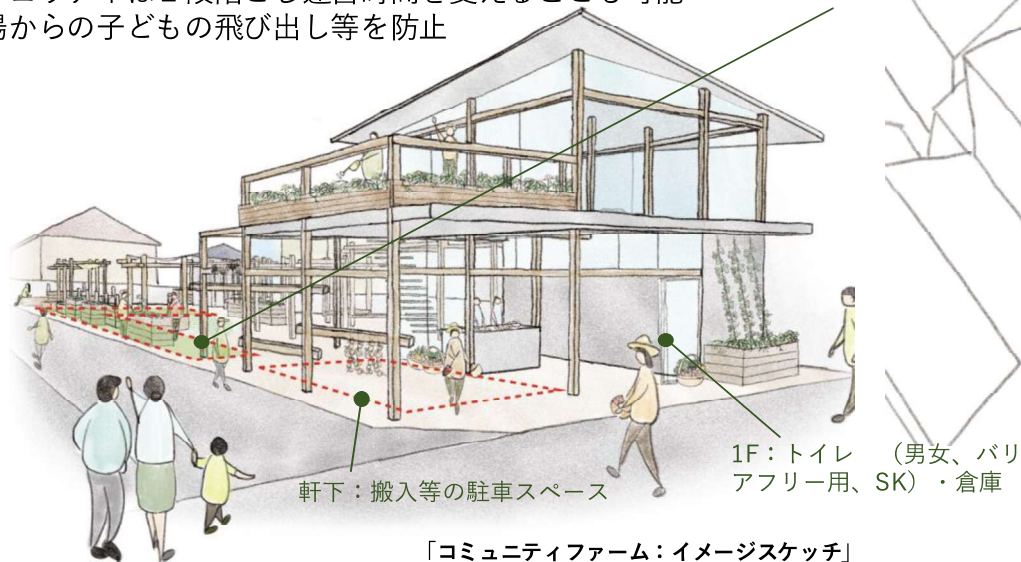
▶ 地域の防災機能を補う

- ・ 一時集合場所としての機能を補う設備を整備する
- ・ 助け合える関係性を紡ぐ日々の活動が災害時の備えになる

彫塑館通りをより魅力的&安全にしたい！

▶ 建物を沿道側に配置することによる効果

- ・ 既存の町並みラインに揃え町並みを形成する
- ・ セキュリティは2段階とし運営時間を変えることも可能
- ・ 広場からの子どもの飛び出し等を防止



「コミュニティファーム：俯瞰イメージスケッチ」

小倉屋のプランを考える上で意識したこと

朝倉彫塑館通りに気軽に立ち寄れる場所を増やしたい！

▶通りに賑わいを生むきっかけづくり

- ・店舗1階：住民や来街者がふらっと立ち寄れるカフェ。大人から子供、来街者がアップサイクルものづくりに出会う場
- ・店舗2階：不要になった本や雑貨を販売したり交換したりできる一箱本棚&雑貨を展開

壁際の棚（谷中のたな）にはアップサイクル資材が並べられたり、物々交換の場として計画。地域の廃材や不用材のリメイク・リユースにより制作

歴史的価値のある蔵をもっと身近な存在にしたい！

▶日常的に利用できる施設活用

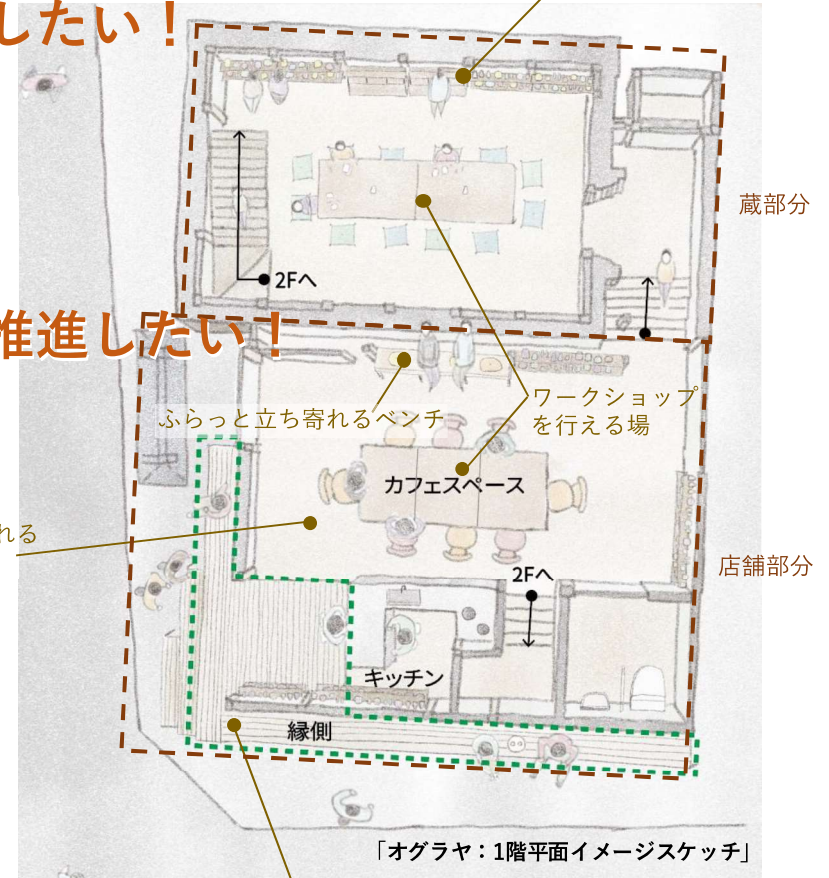
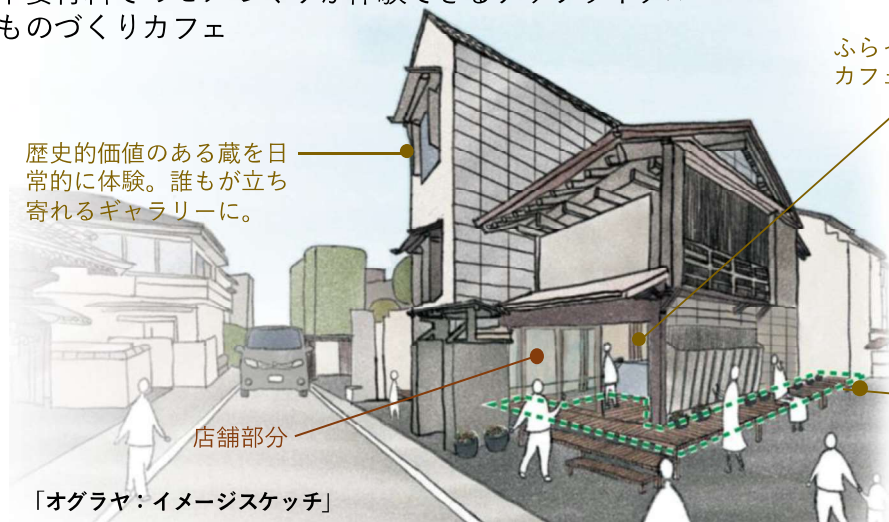
- ・蔵1階：地域の人々が日常的に不用品を持ち寄り、ものづくりを楽しむワークショップ/資材持ち寄りスペース
- ・蔵2階：アーティストや住民の創作活動の場としてのスタジオ・作業場
- ・蔵3階：専有スペースではなくギャラリーとして誰でも立ち寄ることができる場所として蔵を体験

まちの不用品を活用した循環型の暮らしを推進したい！

▶小倉屋や近隣を含めた解体時の廃材をリユース

- ・廃棄家具をアップサイクルして再利用
- ・不要材料でのモノづくりが体験できるアップサイクルものづくりカフェ

歴史的価値のある蔵を日常的に体験。誰もが立ち寄れるギャラリーに。



「オグラヤ」の角は、縁側として解放し、縁側と庇を組み合わせた自立式の半屋外スペースとして設置を検討